



HLPFと市民社会

2016年8月31日

今田 克司

動く→動かす代表

CSOネットワーク代表理事

国連ハイレベル政治フォーラム(HLPF)

- 2016.7.11-20開催(うち7.18-20が閣僚級会議)
- SDGs採択後初のレビューイベント(今後、毎年開催)。
- 今回のテーマは、「誰一人取り残さない」



HLPFのポイント

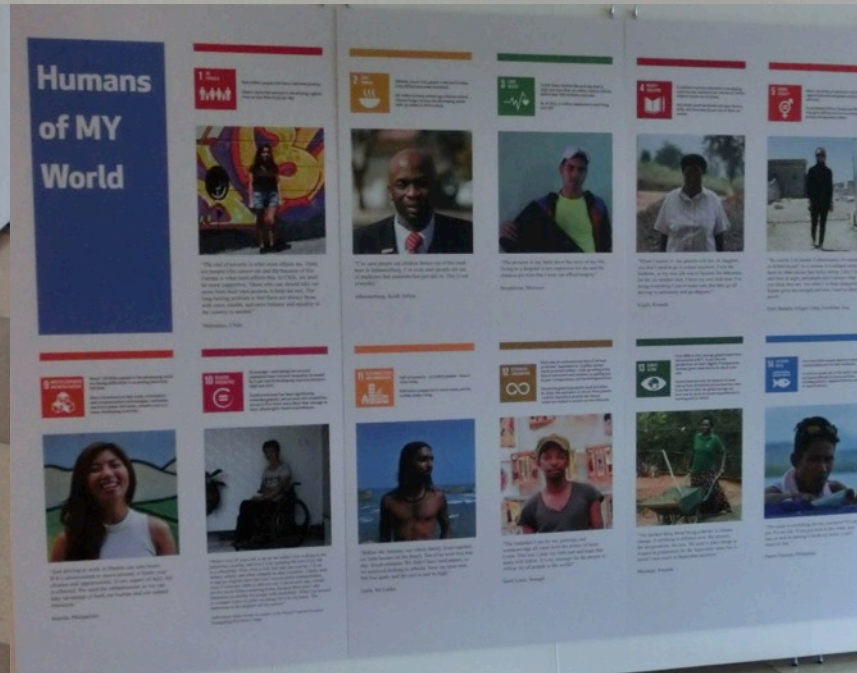
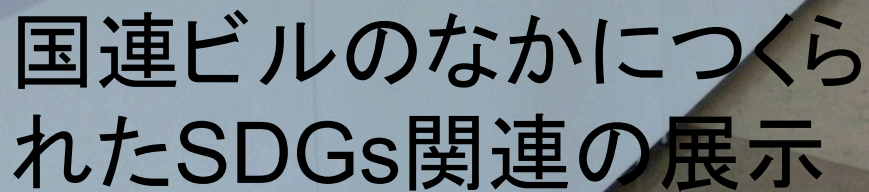
- SDGs採択後最初の国連会議で、各国が「最初の一步」をいかに踏み出したかを国際社会が共有。SDGs実施に向けた勢いを維持。
- グローバル指標の議論が完結しない一方で、官民の力をあわせたデータづくりやモニタリングに対する関心が大。
- SDGs Business Forum、Partnership Exchangeなどのイベントで、マルチセクターの参加者の関心の高さを強調。

今回のHLPFの目玉

=ボランティア・レビュー

- 自発的に手を挙げた22か国が進捗状況を報告





グローバル市民社会の動き (7月17日、A4SDの会合)



新たな市民社会ネットワーク

- SDGs策定に向けたアドボカシーを行っていた市民社会のネットワークが再編され、グローバルなレベルでは、大きく、Action for Sustainable Development (A4SD) と Together 2030 の2つのネットワークに収れん
- A4SD、Together2030 とともにHLPFに際してサイドイベント等を開催。

A4SDの提言

ボランティアレビューに手を上げた22カ国の市民社会にSDGs実施に向けた課題を調査し、共通課題を次の6項目にまとめた。

- (1) 市民社会のスペース制限に対する懸念
- (2) 国レベルの市民社会の効果的なコーディネーションの必要性
- (3) SDGs実施の市民社会によるモニタリングとレビューの必要性
- (4) 各国政府が主導する意味のある意見交換プロセス
- (5) 各国政府における、SDGs実施を戦略的に主導する機関の存在
- (6) SDGs実施の各段階における市民社会の関与

日韓市民社会サイドイベント (7月14日)



サイドイベントの趣旨

- 市民社会XアジアXドナー国でSDGsを使って国内課題と国際 이슈をつなげようとする試みがあることを紹介。
- それぞれの政府と連携してSDGsの効果的な実施に向けて動き出していることを強調（日韓政府からのコメンテーターを招く）
- 日韓両国へのアジア & グローバルからの期待を表明してもらう。



韓国側発表で紹介された 韓国の社会問題とSDGs

- 所得格差、教育や住居の不平等
- 「安心・安全」の懸念（セウォル号事故の対応、環境汚染被害等）
- 重厚長大優先の産業構造からの脱皮
- 市民社会スペース（表現や集会の自由への圧迫

韓国側発表で紹介された SDGs に対する韓国市民社会の取り組み

- 市民社会横断的組織、Korean Civil Society Network for SDGs(KCSN)の結成。さまざまな分野(女性、障害者、経済社会、環境、ガバナンス等)で活動するCSOが参加
- 韓国のボランティア・レビューに対するポジションペーパーを発表。SDGs実施に向けた市民参加の仕組みづくりを提言。
- ボランティア・レビュー報告書を、「国内政策をSDGsと照合しただけのつぎはぎ文書」と批判。また、「市民との十分な協議なしに作られた」と指摘“
- 今後は国内・国家間格差(ゴール10)、ガバナンス(ゴール16)、パートナーシップ(ゴール17)などに注力

EvalSDGsサイドイベント (7月13日)



グローバル評価アジェンダ

- 2015年11月、ネパールで開催されたグローバル評価週間において採択。
- SDGs実施をにらみ以下の4項目を5年間目標として策定。
 - (1)各国において質の高い政策評価が行われるための環境整備
 - (2)評価専門機関や市民社会の組織基盤強化,
 - (3)評価者の能力向上
 - (4)評価機関や評価者の能力向上のためのネットワークの構築

サイドイベントの趣旨

- SDGsにおいて、グローバルと国単位での指標を使ったレビュープロセスが今後展開すること意識
- 客観的データの役割に注目が集まっていることを歓迎
- 同時に、SDGs 実施が、データによるモニタリングの議論にとどまっていることに強い警鐘を鳴らす。

＝SDGs評価はモニタリング以上の価値判断や学びを伴うもので、評価を置き去りにしてはならないというスタンス。

ご清聴ありがとうございました。

katsuji@csonj.org